



学校だより

1月号



葛野小学校教育目標

「未来を拓く 健やかな 葛野の子」

スローガン 「早寝 早起き 朝ご飯 元気なあいさつ 外遊び」

平成28年1月7日

横浜市立葛野小学校
校長 縣 優子



大人の役割

校長 縣 優子

新年あけましておめでとうございます。

今年の三が日は、好天に恵まれ、さわやかに新年を迎えることができました。「一年の計は元旦にあり」と申しますように、年頭より新たな目標に向かって心身共に健康でスタートできることは、本当に幸せなことであると実感いたしました。本校の教育活動につきましても、27年度のまとめと28年度へ向けての準備を怠りなく進めております。地域・保護者の皆様からいただいたご意見を、十分に反映できますよう努めていく所存です。

冬休み中“江戸時代の子育て”について書いてある書物を目にしました。江戸時代、医療が未発達であったため、出産時における新生児の死亡率が高く、妊婦の命も危険と隣り合わせでした。また、無事に出産できたからといって安心はできません。お七夜までは、赤子の魂がどこかにつれていかれないように、母親は横になることはおろか、眠ることすら許されなかったそうです。その後も、水疱瘡やはしかなどの感染症を含め子どもの命は常に危険にさらされていました。お宮参り、お食い初め、初節句などの儀式は現在では形だけのものになりつつありますが、当時は一つ一つの段階を踏んで「ここまで生きてこられてありがとうございます」と、心から子どもの成長を祝うものだったのです。また、「子は10年のあずかりもの」と言って、子どもが10歳になるまでは天からのあずかりものという概念のもと、長屋ぐるみ、町ぐるみで大切に育てたそうです。幕末から明治にかけて来日した異国人たちの多くは、日本の国の子どもが社会全体で愛され、のびのびと明るいことに驚いています。激しい叱責などがほとんどないのに、みんな聞きわけがよく、利発で礼儀正しく、貧しい家の子どもでさえ読み書きができる。さらに、子どものための遊び道具や、双六などの浮世絵の充実ぶり、四季折々や節句ごとのイベントも、子どもを中心に行われるものが多く、「日本は子どもにとって天国のような国」と称賛されました。大人たちは、子どもによく遊ぶことを推奨して、集団の遊びのなかから競争心・協調性・助け合い・思いやりの心などを学ばせました。さらに「学ぶ」の語源が「真似る」にあるように（まねる→まねぶ→まなぶと変化）、大人の行動を真似させ、しつけることにより、社会性を身につけさせたということです。そして、男の子は15歳、女の子は13歳で成人とされたため、大切に育てた子どもが親元を離れるのはあっという間です。それまでに「子どもが将来、きちんと独り立ちできるように養育すること」。これが、親や周囲の大人たちの責任であり、義務であり、目標であり、愛情なのです。江戸の昔、親や地域の大人たちが子どもを必死に育て、自分の足で人生を歩けるよう世に送り出したのです。家庭と地域の結びつきが問われるこの時代だからこそ、学ぶべき点が大いにあると言えます。子どもが育つのは当たり前ではなく、責任をもって育てるべきであり、子どもたちが日々生きていることに感謝し、命のありがたみをかみしめたいものです。

今年の干支「申」は、樹木の果物が熟して固まっていく様子を表したものだといわれます。果物が熟すまでには、人、水、温度、光等々多くの関わりやよい環境が必要となりますが、子どもたちの成長においても周りの大人たちのよりよい関わりが求められます。また大人たちは、その役割を自覚し子どもたちを育てていかねばなりません。そういう意味で学校におきましては、地域の皆様、学校ボランティアの皆様に、よりよい環境づくりをしていただいておりますことに、心より感謝いたします。

本年も引き続き、保護者、地域の皆様のご支援、ご協力の程をどうぞよろしく願いいたします。